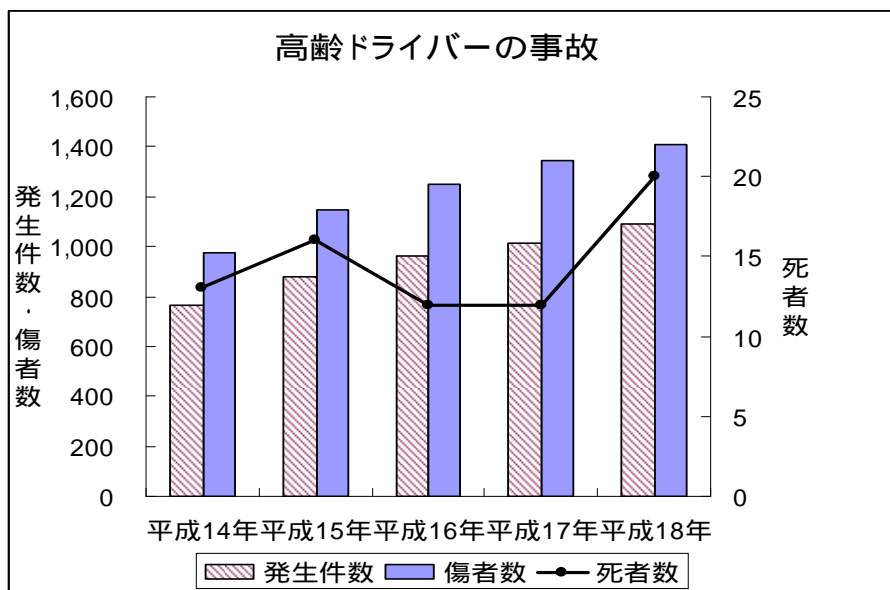


地域ぐるみで 高齢者の交通事故防止を!

今回は、「高齢ドライバーの事故」に目を向けてみましょう。

資料 1

滋賀県内の高齢ドライバーの事故について、過去 5 年間のデータを見ますと、発生件数、傷者数ともに **年々増加の傾向**を示しています。死者数は増減が見られますが、平成 18 年中は高齢ドライバーの事故死者が 20 人に上りました。これは、前年に比べて 8 人も増えています。



なぜ、高齢ドライバーの事故が増えたのでしょうか。

1. 運転免許保有者数の増加による理由

高齢者の交通手段が、歩行、四輪運転へ転換する傾向がみられます。

2. 身体面・・・加齢に伴う身体機能の低下による理由

特に視覚機能の衰えが、夜間の交通行動に影響を与えます。

(ア) 視野が狭くなる

(イ) 視力が衰える

(ウ) 色の識別能力が低下する

(エ) まぶしさをより強く感じる など

例えば、視野が狭くなったことにより、左右の安全確認が不十分になってしまうことが考えられます。姿勢が前かがみになるといっそう視野は狭められます。

事故防止のためには、こうしたことを意識し、しっかりと前後、左右の安全確認を実行しましょう。「危険予測」のトレーニングは事故防止に有効とされています。

3. 「認知症」ドライバーの問題による理由

超高齢化社会の日本にとってこの問題から目を背けることはできません。

このほかにも、様々な理由が複合して高齢ドライバーの事故が起こっていると考えてください。

参考【高齢者講習とは・・・】

高齢者講習は、危険予測や事故事例等に関する視聴覚教材を用いた講義のほか、コース又は道路における自動車等の運転、動体視力検査器等を用いた検査を通じて、運転に必要な適性に関する調査を行い、受講者に自らの身体機能の変化を自覚してもらうとともに、その結果に基づいて助言・指導を行うことを内容としている。70歳以上のドライバーが対象。

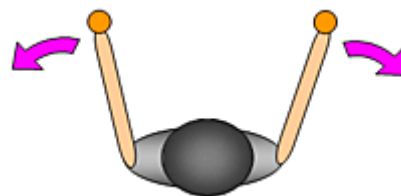
平成 19 年 6 月 14 日改正道路交通法が成立したことにより、75 歳以上の高齢ドライバーが対象の認知機能検査が導入される。

簡単にできる視野の確認方法

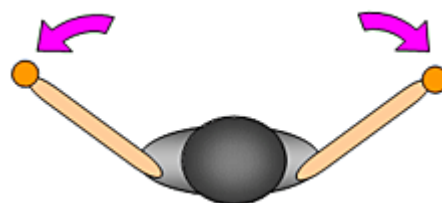
1. 両手を握った状態で、両腕を胸の前で水平に伸ばす。
このとき、親指を立てて手を握るか、棒などを持つ。（目印になる）



2. 両手の親指や棒を見ながら、両腕をゆっくりと左右均等に開いていく。
このとき、目は真っ直ぐ正面を見て、顔も動かさない。

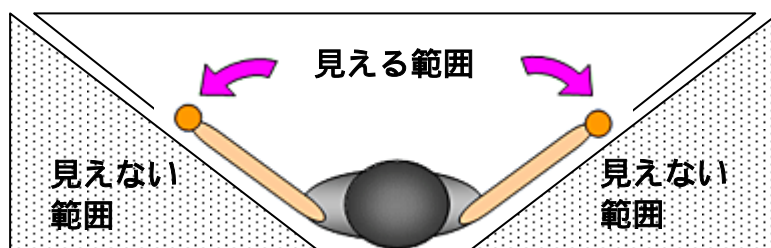


3. そのまま両腕を開いていき、両手の親指や棒などが見えなくなったところで、腕を開くのをやめる。（この位置で両腕を固定）



4. 両手の親指又は棒などが見えなくなったときの両腕の角度（両腕の内側部分）が、現在、自分の目で見ることができる範囲（視野）である。

そして、自分の視野を確認した後、見えない範囲があることも理解する。



自分の視野を確認することは、交通事故を防止する上で大切なことです。簡単にできるので皆さん、是非やってみてください。そして、交通事故防止に努めてください。

